

# 大明小学校 校長室から

令和2年10月19日

No. 12

文責 校長 穴山 直樹

## 小学校のプログラミング教育

10月も中旬を過ぎ、朝夕の肌寒さを感じるような季節になりました。子どもたちも学習に適した気候の中、落ち着いた態度で授業に取り組んでいる毎日です。保護者の皆様方におかれましては、いつも本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この紙面でも新学習指導要領の特色である「小学校の外国語活動が教科になったこと」や「道徳が特別な教科になったこと」については紹介してきました。そのような中、「小学校プログラミング教育の必修化」が注目されています。この背景には、今の子どもたちが社会で活躍する時代は、科学技術の発展に伴い、今以上に人工知能やロボット、インターネット活用が進行することが容易に推測されます。そのとき、コンピューターに使われるのではなく、コンピューターを主体的に使うことで、より安心・安全に豊かな生活ができることを目指し、プログラミング教育が導入されました。コンピューターが持つ機能を最大限発揮させるのは、人間が入力するプログラミングであることを、小学校のうちから体験させます。そのことが、予測不可能といわれる高度情報社会を生き抜く資質を培うと期待されます。

プログラミング教育の目的はプログラマーやシステムエンジニアを育成することではありません。(結果的に興味関心意欲をもってなりたいと目指すことは素晴らしいことだと思います。)人工知能の社会導入、ものやもの、人や人がインターネットでつながる時代に活躍する子どもたちには、「読み・書き・計算」同様、第四のリテラシー(能力)になりうると考えます。試行錯誤で高める論理的思考、論理的思考から創造的思考への高まりは、子どもたち自身が体験することで実感することだと思います。

本校でも今後様々な実践を参考にして研究を重ねながら、各学年の実態に沿った活動を取り入れたいと考えています。その時にまた、その内容をお伝えできればと考えています。

## 「いかのおすし」の推進

先日15日に全国道路標識・表示協会から山梨県警察本部・南アルプス警察署を通じて本校に「いかのおすし路面シート」が寄贈され、児童玄関前の路面に貼り付け作業が実施されました。「いかのおすし」とは「知らない人についていかない」「知らない人の車にのらない」「助けてとおおごえでさげぶ」「すぐにげる」「どんな人かをしらせる」等を組み合わせて子どもたちを不審者から守る合言葉として使われてきています。登校時や下校時に子どもたちがこのシートを見て、不審者被害にあわないように意識することで自分の命は自分で守ることができるようにしていきたいと考えています。保護者の皆様方も来校時にこのシートをご覧いただいたり、家庭内で「いかのおすし」について話題にいただいたりすること等、「いかのおすし」の推進にご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

